

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を4月に新しいものにしたが、職員全員が周知できていない。あるだけのものになっており、職員も意識できていないように思える	理念は3つあり①楽しみ生きがいとなることを共に探し実現していきます。②家族や地域なごみの関係、社会との関わりをたやさずに大切にしていきます。③家庭的な環境を大切に安心して安全に暮らせるようにご利用者と職員が共同して日常生活を行います。と掲げている。4月にミーティングで話し合いを行っているが、管理者が変わり職員の入れ替わりもあり共有化できていない現状が窺える。現任の管理者は短い言葉で、分かりやすい理念を作りあげてはどうかと意欲的に考えている。	理念は事業所が最も大切にすることを言葉にしたものであり、理念を共有化することで働くスタッフ全員が、同じ方向を向いてサービス提供を行っていくものであり、サービス提供に迷った時は立ち戻り、拠り所になるものである。理念について再度話し合いを行い、スタッフ全員が共有し同じ気持ちでサービス提供が行える事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な関わりはあるが、日常的に関わりはもてていない。地域の行事に参加したり、地域の皆さんを招いての行事なども企画していきたいと思う	町内会費を納めており、地域のお祭りにはお神輿が立ち寄り、お祭りの雰囲気を楽しむ一年の中で楽しみとなる行事である。また、事業所の敬老会には保育園児が来所し利用者と交流を行い、オレンジカフェには地域の方が来られ、利用者と繋がりを持ちながら地域との交流促進を行っているところである。地域の運動会もあるが、事業所としてはまだ参加したことがなく、今後は運動会にも参加したいと管理者は考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	オレンジカフェの実施、ラン伴への参加、地域の講座に職員が参加している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取組の報告は行っているが、地域の方からの意見はなかなかでない	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催となっている。事業所の日常的な取り組みや行事報告を行っている。写真入りで日常の様子が分かりやすく資料提供されている。包括支援センターや柏崎市の職員も参加しているため、参加している町内会長や民生委員からは、身内の話、地域の実情の話があり、介護保険のサービスがこの地域まで行届かないことや職員が足りない等の意見があり、柏崎市でも課題になっている事などの意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあった時の連絡や相談は行っており、協力関係は築けていると思う	運営推進会議には柏崎市の職員が参加しており、介護保険や運営上でのことで迷った時、治療が必要な事故報告等の報告がなされるなど、日頃から相談、助言が得られる協力体制となっている。柏崎市からは、現在流行っている感染症や研修会、オレンジカフェ等の連絡がメールで情報発信されるため、照会される研修会等に職員は参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は定期的に行っており、現場での対応を例にし、どのような事が拘束になるのかなどのお話もミーティングで行っている	身体拘束マニュアルが整備されており、会社全体で行う研修も定期的に行われている。全職員が参加できるよう2日間予定され、各事業所から事例を持ち寄り検討している。事業所では、毎月のミーティングの中で、センサーの使用状況、不適切ケアについて話し合わせ、ミーティングで出た検討事項等は、身体拘束及び虐待防止委員会で再度検討し事業所全体のサービス向上に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については入職時と定期的に研修を行っている	虐待防止研修については全職員が対象となり、定期的に行っている。研修終了後は日頃のケアの振り返りや研修で学んだことなどをレポートにまとめ本社に提出している。毎月のミーティングでは、不適切ケアに繋がるような内容を事例を基に話し合い、身体拘束及び虐待防止委員会で再度検討している。職員のストレスケアについては、メンタルヘルス研修を定期的に行い、研修後にはレポート提出を実施するなど、職員のストレス等を把握できるよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護などの研修は行えていない。研修をする機会を作るようにしていく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に説明し、利用者、ご家族には何かあればいつでも聞いて頂くよう話をしている。面会に来た時など話しかけるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方には普段から話をしたりしているが、ご家族にはプランの変更時などにしか詳しい話は聞けていない。	利用者には日常の関わりから声かけを行い意見や要望を聞いている。利用者自ら訴えができない方でも、居室担当が日々の様子から好きな事、好みの食べ物等を把握するよう努めている。利用者の様子は毎月居室担当が家族宛に写真付きの手紙を書き、利用者の様子を伝えている。家族からも受診時や面会時、ケアプラン変更時に声掛けを行い、意見や要望を聞いている。家族との信頼関係も良好であり、良い関係が築けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行い話す機会を作っているが、なかなか反映できていない部分もあると思う	事業所は2ユニットあり、両方のユニットミーティングに管理者が出席している。業務に関することはその場で決めて実施し、それ以外の意見があれば、毎月行っている管理者会議に報告を行っている。各職員は自己評価シートがあり、目標設定や振り返りを行っている。資格習得や異動希望等記入し面談も行われている。若い職員が多く管理者を頼りにしており、職場の雰囲気も相談しやすく、意見を述べやすい環境が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談なども行い、職員と話す機会をつくっている。やってみたいことや、研修などに参加してもらい、やる気につなげていっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は多くあるが、外部研修にはなかなか行けていないので、外部の研修に出る機会を多く作っていくようにしたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ会社内での関わりはあるが、他の施設などのかかわりはない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時はもちろん、各利用者に個別の担当を付け、外出の機会や話す時間を作るようにし、信頼関係を築けるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に話を聞き、変わったことがある時は連絡をしたり、面会時にも声を掛けたり、信頼関係が築けるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの際にも話を聞くが、入所時や、入所して少ししてから再度利用者やご家族と話す機会をもっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできる事はやっていただくことを利用者、家族に話している。食事作りやたたみ物などを職員と一緒に行うようにし、職員も過剰な介護をしないよう、研修などを行っている		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な受診は家族に行って頂いたり、衣替えなども行って頂いたり、面会や外出、外泊の機会を作っていただいている	自宅への外泊や家族参加型の行事を企画し、多くの家族が来所され協力を得られている。医院への受診は家族にできるだけお願いし、外出時は家族と一緒に外食に行くなど利用者は家族との時間を楽しんでいる。定期的に行われるオレンジカフェにも利用者と家族が一緒に参加し賑わいを見せている。遠方の家族も定期的に面会に来られており、利用者との時間を大切に過ごしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居しても行きつけの美容室に通って頂いたり、できる限り、入居前と変わらない関係が続けられるようにしている	利用者は市内全域から来ており、家族の医療受診が難しい時などは職員が付き添い、利用者の出身地を巡ったり、近所の顔見知りの方と一緒に話をするなど、馴染みの関係が継続できるよう支援している。また、自宅で果物を育てている方は手入れに行くなど、一人ひとりの生活習慣を尊重し大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況に応じてホールの席替えや、職員が間に入り会話の橋渡しなど行っている。入居者同士の声掛けや介助をしている際はそばで見守るなどしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院して退去となることが多いが、退去後も必要時にはカンファレンスに参加したりなどして、退去後もサポートやアドバイスするようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症があるので本人の意向が聞けない事も多いが、普段の様子や、ご家族から以前の様子なども聞き、職員皆で考えるようにしている	日常の関わりの中でゆっくり利用者の話を聞くように努めており、本人の意向確認が難しい方は、日頃から声をかけ表情やしぐさなどから真意を読み取り把握に努めている。家族、本人から丁寧に意向を聞き取り、介護計画に反映し職員ミーティングにて話し合い共有している。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞くようにはしているが、センターシートの活用なども検討したい	入居時に自宅調査で、家族からの意向確認と同時に、利用者の趣味や日課として続けている事の把握に努めている。在宅で利用していたサービスの把握、居宅のケアマネジャーからの情報シート等を事前に情報収集し、一人ひとりの生活歴や日課等が入居後も続けていけるように、利用者の思いやこれまでの暮らしぶりを大切にしたサービス提供に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや、毎月のミーティングなどで状況の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者の課題や問題点などについては話し合いを行えているが、ご家族との話し合いは、プラン変更時などにしか行えていなく、現場職員も参加しての家族との話し合いの場などをつくっていただけたらいいと思う	計画作成担当者が中心となり、これまでの暮らしの把握、生活環境を事前に情報収集した内容を毎月のミーティングで話し合い介護計画を作成している。介護計画は定期的に見直し、体調の変化があれば、その都度現状に即した介護計画の作成に努めている。モニタリングは居室担当が毎月行い、利用者の課題や問題点があればミーティングで話し合いを行っている。	介護計画の作成については、毎月のミーティング時に話し合いを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。介護計画を説明する段階で、計画作成担当者と家族で話し合い同意を得ている。介護計画は利用者の生活を支えるものであり、利用者中心とならなければならない。今後は介護計画説明時に利用者、居室担当も同席し顔が見える関係作りに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録などは毎月のモニタリング以外行えていない。こう少し個別に様子や気づいた事を記録し、ケアに活かせる工夫が必要だともう		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	あまり柔軟な支援やサービスは行えていない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や協働はあまり行えていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は以前からのかかりつけ医に受診してもらっている。必要時には受診介助や状態に応じ、専門医への受診変更などの相談、支援を行っている	受診支援については入居前からのかかりつけ医に受診している。受診時には現在の様子を家族に手紙で渡し、受診結果も家族より報告を受け、情報の共有が図られている。事業所での受診付き添いも可能であり、受診結果は家族へ連絡している。認知症状の進行により家族と相談し専門医への受診に繋げるなど、相談、支援を行い、必要時は職員も付き添い適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、小規模に来ている看護師に状態の相談をしたり、病院の看護師に相談、情報共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、入院中も定期的に状態の確認、退院時にはカンファレンスを行い関係作りをしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明は行っているが、早い段階からの話し合いはなかなか行えていない。	契約書、重要事項説明書の中に退居や看取りについての項目があり、その中で医療処置が多くなった場合や重度化した時の説明を口頭で行っている。家族には契約の時には具体的に考える事は難しく、体調に合わせて、その都度説明を行っている。状態の変化時や緊急時には家族に説明をし総合病院に繋げている。	契約時に重度化した場合の説明を口頭で行っており、具体的に文章での説明が行われていない現状が窺える。事業所の方針を文章化することで、利用者、家族も具体的に考えることができる。地域性もあり住み替えが難しく、限られたサービスの中で事業所のできる事を話し合い地域の関係者と共に支援していく取り組みに期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行っているが、実践力をもっと身に付けて行かないといけないと思う	職員は定期的に消防署の救命講習を受講し、AEDなど訓練を受け実践力を身に着けるよう努めている。夜間緊急時は管理者に連絡し他ユニットの夜勤者と対応にあたっている。急変時のフローチャート、救急搬送の手順マニュアルは電話の傍に配置してある。月ミーティングで事故報告書を挙げ、転倒などの事例検討を行い事故防止に努めている。また転倒が続いている場合は個別ケース検討も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加し、施設でも年に2回、避難訓練を実施している。連絡網にも消防団の連絡先や、入居者の居室の入り口に写真と名前が書いてあるトリアージをぶら下げて分かるようにしている	事業所の避難訓練は年2回行い、町内消防団が参加しての訓練と消防署員立ち合いの下、行われている。今年度は町内会の河川氾濫を想定した防災訓練に参加している。また災害時利用者の状態がわかるように色分けしたトリアージを居室入り口に下げるなど、地域との協力体制を築くよう努めている。倉庫内には水、食料などの備蓄品が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄の声掛けなど、他の方に聞こえるような声掛けの仕方をしている時があるので、研修やミーティングで改善するようにしていきたい	ミーティングで言葉づかい、言葉選びについて個々の利用者への対応などを話し合い、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応ができるよう努めている。プライバシー保護の研修を行い研修後はレポート提出を行い、振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も本人に聞き、自己決定ができるようにはしている上手く伝えられない方には選択をしてもらうようにしたり、できる限り自己決定を促している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務に合わせてしまっている所があるが、できる限り本人様のペースに合わせて行っていけるように、状態に合わせて業務を変えていくなどの話し合いを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時は職員と一緒に服を選んだりしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューが決まっているので、なかなか個人の好みなどは反映できていない。食事の準備や片づけは利用者、職員と共に行っている	食事は配食業者からの食材を利用し、栄養バランスのとれたお楽しみメニューもあり、種類豊富な献立となっている。嫌いな物の代替も可能であり、誕生日やレク行事で好きなものを食べに出かけるなど、食事を楽しめるよう工夫されている。利用者は野菜の皮むき、盛りつけ、おぼんや箸などの食事の準備、片付けや茶碗洗いなど、本人のできる事を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事がとれない際の捕食の用意はしている。水分も多めにとるように声掛け、介助し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行い。個人の状態に応じ、声掛け、介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンはなかなか把握できず、介助を必要とする方は時間で誘導してしまっている。自立に向けた支援はできていないと思う	排泄チェック表があり、排泄の記録と把握に努めている。自力でトイレに行かれない方にも声掛けを行い、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツ、パット類も利用者個々に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳を飲んで頂いたり、午後から運動する時間をつくっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、ご本人が希望したら入浴できるようにしている	月～土曜日まで入浴が提供されている。入浴時間は決めずに入りたいときに入れるようにしている。女性同士で仲が良い方と入りたい方やゆっくり一人で入りたい方など、その都度利用者の希望に沿って対応している。浴室にはリフトが設置され、重度化しても入れるお風呂となっている。季節に応じてゆず湯など楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休息の声掛けをしたりし支援できていると思う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書をファイルに閉じて、職員がいつでも確認できるようにしている。内服の変更があったら職員に周知し、数日は服薬による変化がないか気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合わせた楽しみ事の支援は行っていないと思う		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行く際に一緒に行ったり、ドライブなどには出掛けている。ご家族や地域の人々との協力はあまり行っていない	日常的に調味料やおやつの買い出しに出掛け事業所裏の畑に散歩に出掛けたり、隣のグループホームまでお茶のみに行くなど、利用者の希望に応じて対応している。外出計画は立ててはいないが、天気が良い時は海にドライブに行ったり、紅葉時期には紅葉に出かけたり、季節に応じてのドライブや昼食を食べに行くなど、好きな時に好きな場所に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を持っている方はいられるが、それを使って買い物をするなどはできていない。家族が管理されて持っていない方も多い		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人がしたいと言われた時はしていただいている。懸賞など出す方がいられるので、はがきを出したりなどの援助はしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が出るような飾り付けなどはできていない。トイレの場所が分かりづらいので、わかりやすい表示などはしている	壁には季節感のある飾りつけや利用者の作ったレース編みが飾られ、日当たりのよい明るいワンフロアの共有空間となっている。台所からは調理の匂いがするなど生活感があり、利用者は席に座り思い思い過ごしている。トイレが奥まっているため「トイレ」と表示して利用者にわかるように工夫がされている。管理者はワンフロアの一角に畳を敷いて、人目に付かないちょっとした一休みできる場所を確保したいと考えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに一人になれる空間がない。気の合った方同士が近くに座れるように席を配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は自宅から持ってきてもらっているが、人によって居室の飾り付けなどは違い、殺風景な部屋の方もいられる	居室にはベッド、リネン類、洗面台、エアコンは備えつけてあるが、その他は持ちこみ自由となっている。自宅から仏壇やコタツなどの家具類やテレビ、冷蔵庫など持ち込むことが可能であり、また家族写真を置くなど本人が居心地よく過ごせるような工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の電気の付け方が分かりにくいなど、利用者さんにとって難しい作りになっているところがある		